

第21回地域公共交通活性化協議会 議事概要

日時： 令和8年1月29日（木） 13時00分～14時10分
場所： 北斗市総合文化センターかなで～る2階 中会議室

(出席) 13名
(代理出席) 3名
(欠席) 7名
(事務局)

1 開会

2 協議事項

(1) 第2期北斗市地域公共交通計画について（1. 第2期計画策定の背景、2. 第1期計画の振り返り）

※資料1により事務局から説明

○委員

・施策⑥の乗り継ぎ割引について、協議をしていないところであるため、誤解のないような書き方にしてほしい。

●事務局

・書きぶりは改めて検討したい。

○委員

・施策②の「広域幹線との接続を意識した新函館北斗駅・上磯線の有効活用」という施策の成果が、中学校の通学需要に対応したダイヤ改正を行ったというのは、少しズレているのではないか。

●事務局

・確かに繋がりががないので改めて整理したい。

●事務局

・元々は広域幹線に20分以内に接続していけるように、新函館北斗駅・上磯線を函館バスの大野線や上磯線へ接続を繋がるようにダイヤ改正を検討していく、という話だったが、結果としては上磯中学校の通学需要に対応したダイヤ改正だけだった。文章をもう少し足して誤解のないような書き方にしたい。

(2) 第2期北斗市地域公共交通計画について（3. 現状と課題（まとめ））

※資料1により事務局から説明

○委員

・現状と課題③の新函館北斗駅・上磯線の運賃設定について平成20年から見直しをしていないのか、見直しをした結果、運賃が据え置かれているのか、どちらか。

●事務局

- ・平成20年に運行をしていたのは「南北市街地連絡バス」という旧大野町と旧上磯町が合併した時に両町の融和とアクセスするための交通機関の創出ということで運行していた。そのときの路線は運賃が100円であった。平成28年の3月に北海道新幹線が開業した際に新函館北斗駅や旧上磯町の富川地区まで路線を延ばした。この延ばしたところについては、運賃が200円から400円と距離に応じた設定をした。平成20年からの路線については運賃が100円のままであり、見直しについては行っていない状況。

○委員

- ・現状と課題③の交通モードの重複について、その他にも函館バスの路線で重複している部分があるので整理していただきたい。

●事務局

- ・具体的な路線だとどこになるか。せせらぎ温泉の話か。

○委員

- ・せせらぎ温泉は重複していないが、市街地など巡回ワゴンと被っている箇所があると思うので、路線の整理を含めて考えていただきたい。

●事務局

- ・承知した。

(3) 第2期北斗市地域公共交通計画について（4. 施策の方向性、5. 施策内容、6. 評価指標と推進体制）

※資料1により事務局から説明

○副会長

- ・施策④のふれあい入浴券について、紙では知人に受け渡しがあったとのことだが、一部の人しか使わないということが起きないようにする対策などは考えているか。
- ・施策⑤のサイクル&バスライドについて、市側の周知のほかに店舗側からの周知はないのか。

●事務局

- ・希望する人のみに配布するなど、実際の運用については今後検討していきたい。
- ・店舗側からの周知といったものも取り入れていきたい。

○委員

- ・評価指標の新函館北斗駅・上磯線の収支率について、かなり収支率が改善しているがどのように考えているか。
- ・バス生活路線維持費補助金についてはバス路線が減少するから補助も減少するのか、それとも収支率が改善するから補助が減少するというのか。

●事務局

- ・バス生活路線維持費補助金については、自治体を跨いで走っている路線バスの赤字額に対しての補助金というところで国と道で補助している。重複路線については国の補助がカットされており、その分については関係自治体で協調補助している。重複交通モードを整理すれば、国と道の補助で済むことになり、補助額の減少ということで目標にしている。

●事務局

・収支率については、運賃を見直し現在の1.5倍となったと仮定して、計算を行った。

●事務局

・目標値については、毎年の現状値を確認しながら、目標値を変えていくことも可能と考えている。

○会長

・前回の書面協議の結果に巡回ワゴンの運行ルートを頻繁に変えるのは利便性が悪くなるという意見があったが、どのように考えているか。

・コープまで巡回ワゴンの延長があったときに、延長しても利用者が伸びないときは休止もあり得るという話だったがどう考えているか。

●事務局

・大野線については、路線がしばらく変わっていないが利用者が低調な状況が続いているので、需要の調査を行ったうえで、休止も含めて検討していきたい。上磯線についても需要の調査を踏まえたうえで、続けていくか休止するのか慎重に検討していきたい。

●事務局

・利用者目線からすると路線が固定化する方がわかりやすいということは理解している。一方で、税金を使って運行しているので、利用者が少ないのにもかかわらず、走らせ続けるのも市民の理解が得られないのではと考えている。住民ニーズが高いところを探りながら路線を考えていきたい。

・コープさっぽろのようにニーズが高いところに延長しても伸びないことがあれば、裏を返すと近所の人で車を出し合ったり、乗り合いをするなど地域共生社会が出来上がっているかもしれないので、巡回ワゴンの運行は休止し、人口が減ったり、地域の関係が希薄になったときに復活させるという考えも施策②には含めている。

○委員

・第1期振り返りの施策④の待合環境の充実というのは成果として、数値的にはなにかわかるものはあるか。

●事務局

・満足度調査などは行っていないので数値的なものはなく、利用者からの苦情等が少なかったことから、待合環境の快適性や利便性が向上したという考えで記載している。

○副会長

・第1期振り返りの施策④の暖房について、今後も整備はしないのか。

●事務局

・管理する人間がいなかったため、安全面の問題や経費面でも課題があり実施していないところであり、そういったところがクリアできるのであれば改めて検討というところになってくると考えている。

○副会長

・解決したいことが課題なので、できるならするっていうのは課題ではないのではないか。

●事務局

・考え方は改めて整理したい。

3 その他

●事務局

- ・今後のスケジュールについて、2月に30日間のパブリックコメントを行い、市民からの意見を伺っていく。その結果、委員に諮る必要がある意見があれば、3月に協議会を開催する。交通事業者を始めとするワーキンググループで対応できるものであれば、ワーキンググループで対応する。軽微な修正であれば事務局に一任させていただければと思う。

以上